
保身

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

保身

【Nコード】

N0153L

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

まだちよつと意見がまとまっていなかったので改稿するかも。「ちびくろさんぼ」に関する意見です。午雲さんのコメントを読み、確かに黒人視点に立てば洒落にならぬと再確認。そのあたりも掘り下げた
い。

精神科医のきたやまおさむはけっこう好きである。ビートルズに関する新書が実に愉快だったからだ。愉快だし読みやすかったし、切り口もなかなか独特でよかった。内容はさっぱり思い出せないがそういうのはだいたい面白かったものに多い。つまらないものはむかつくあまりずっと覚えてる。

しかし、最近、別の本を読み、「なんじゃそれは」と思ってしまった。講談社「みんなの精神科」という文庫の一節に引っかけた。引っかけたというより思わず「ふざけんな！」と叫んでしまった。要約すると、「ちびくろさんぼ」は絶版して正解、という趣旨の内容で、まあそれ自体は昔からよく言われることなのでいいけど、その理由がかんべんならなかった。

「ちびくろさんぼ」を知らない若い読者に少し説明しておく。オレも小さい頃読んだだけなのでストーリーはあまり覚えてないが、黒人の男の子が主人公のお話。印象深いシーンはラスト近くで、トラが木のまわりをぐるぐる回ったらしまいにはバターになってしまったという。そこが実に愉快痛快。

なにゆえ、そんな愉快痛快な本が絶版になってしまったかという、要するに人種差別だという理由なわけ。白人が作者なんだけど、まあ、日本で出版されたのはかわいらしいイラストやねんけど、西洋でのイラストはごつつ醜く描かれてるわけ。ちよつと黒人を間抜けな感じに描いてるし、男の子の名前もサンボだし、父さんはジャンボで母さんはマンボという名前。これは蔑視の感がある。

てなわけで西洋では早いうちから絶版になってた。日本は遅れて絶版にしたんだけど、まあわかるでしょう。日本にはあまり黒人がおらんので差別感情がようわからんねん。

まあ個人的には絶版に反対ですよ。白人を主人公にしてもっとおもしろい話作ればいいやんみたいなことをおさむは主張していたが、

こんな愉快痛快なお話簡単に浮かぶものか。作家をなめとんか。てか、白人差別が蔓延しとる世の中だったらどうすんねん。一個、名作がナチス的なものに排除されたとオレは認識している。

ただ、やはり、黒人を愚弄した描きかたはあかんでそこは改善されるべきだと思う。無論、それさえもオレはいやがる。というのも、黒人を愚弄してる表現にだって文学的価値がある。最低、人種差別が世の中にあるということを読者は知ることができるし、差別をしてしまう人間の暗くて深い闇みたいなんもわかる。ゆえに全く変えないで残してほしい。

とはいえ、作者の女性はオレの考えとは別に単にちびっこを楽しませたい一心で書いたただだから、やはりそこはそうこだわるべきでない。黒人の子も白人の子もイエローモンキーの子も楽しめるように改善して残せばいい。例えば、日本版みたいにかわいらしいテキストにアレンジして発表するのであれば何の問題もないと思う。問題ある言うヤツの方が狂ってる。絶版まで行くと完全にファシズムである。

とはいえ、それはどうでもいい。当たり前すぎる話。問題はおさむの以下の発言である。

宇宙人をグロテスクなものに表現し、地球の人間を殺戮するものと位置づける物語もありますが、これだって宇宙人が見たら気を悪くするでしょう。その辺のことを知ったことじゃないと考えて表現するか、「E・T」のように宇宙人にも敬意を表して彼らのことを理解しようとするかで、作品に違いが出てくると思うのです。

ここでオレはキレたわけ。「ふざけんな!!!」

おるかおらんかわからん宇宙人と実際における黒人を同列に扱うなというのはどうでもいい。低次元すぎる。

おさむ。お前は、「ちびくろサンボ」を書いた作家に敬意を表しているのか。理解しようとしてるのか。確かに差別的なところがあり

配慮が足りないのは事実にしても、作者が子どもを楽しませたいと思っ
て書いたその温かい気持ちまで踏みこむつもりなのか。

おさむは、絶対、作者が気を悪くするなんて考えてない。正義に酔っ
っているからね。無論、この作者の女性はきつといい人であると思
うので気を悪くするというより、わちゃわちゃしてしまうだけだと思
うが、オレが作者なら、おさむのこの本を燃やす運動を全国規模で展
開する。気分悪い悪い。吐き気がする。

でもそれをせんのは、そんなことしたら何も意見が言えない世の中
になってしまうからだ。女子小学生のおまんこを写真で撮って拡大
して載せる本を発売するのはいけない。それは道徳的にあかん。小
学生がかわいそう。だが、女子小学生を強姦する漫画を出版する
のは許容範囲である。それは道徳ではなく、「人間はどこまで想像
することができるか」という、創造性に関わる問題になってくるか
らだ。

おさむの主張くらいはオレはむかつくけど殺したいけど許可する。
道徳的にアウトではない。創造性豊かかどうかはわからんが。

しかし、おさむたちは「ちびくろさんぼ」を許可さんのだ。「ち
びくろさんぼ」は差別表現があるにしても道徳的にアウトではない。
おさむたちのせいで、一つ、創造性豊かな物語が死んだ。

まったくおさむたちは、ドイツ人の正義のためにユダヤ人を大量
虐殺したナチスと同じ人種である。人種差別反対という正義を理由
にすれば作品をいくらでも殺していいと思ひ込んで。人種差別撤
廃を国是に、白人国アメリカに喧嘩を売ったかつての大日本帝国と
は大違いだ。大日本帝国は負けるの覚悟で戦った。すごい犠牲を出
して。でも、おさむたちは誰にも文句を言われない、むしろ、「人
種差別反対を訴えて偉いね偉いね」と頭をなでられるようなぬくぬ
くとした温室で日々、作品抹殺という殺人行為に精を出している。
こういうやつらこそオレは差別したい。同じ人間だとは思わたく
ない。皆殺しにしたい。おならの充満したガス室に閉じ込めて皆殺
しにしたいね。けけけけけけけけけけ。

（後書き）

ただ原典を読んだことがないのでねえ。誰か持っていないか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0153/>

保身

2010年10月28日08時13分発行